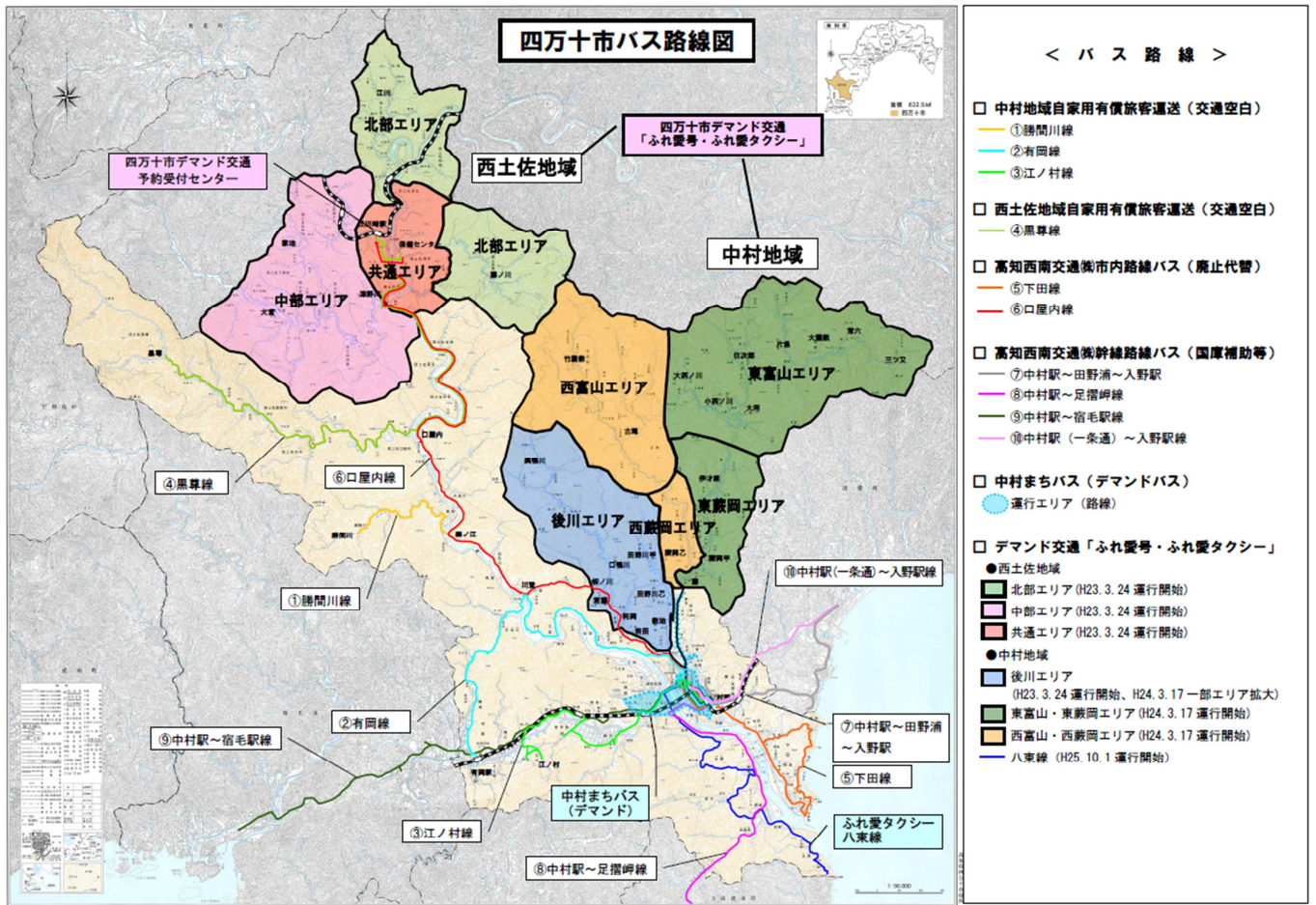


四万十市 (「ふれ愛タクシー」、「ふれ愛号」)		導入形態	デマンド型乗合タクシー、バス				
		導入地区 (導入開始)	西土佐地域、中村地域(後川エリア)(H23.3月～) 中村地域(富山・蔵岡(東西)エリア)(H24.3月～) 中村地域(八束地区)(H25.10月～)				
運行主体	(西土佐)有西土佐交通(後川・西富山・蔵岡)高知西南交通(株) (東富山・蔵岡・八束)四万十市タクシー組合 ※四万十市タクシー組合では、H27.11より4社が1週間交代で運行						
運行台数	(西土佐)ワゴン車3台(後川)ワゴン車1台(西富山・蔵岡)ワゴン車1台 (東富山・蔵岡)タクシー車両1台+予備車2台(八束)タクシー車両1台+予備車1台						
運行形態・便数	・区域運行(西土佐地域：各エリア～江川崎、中村地域：各エリア～中村市街地) ・路線不定期運行(中村地域：八束線(名鹿地区～中村駅)) ・西土佐地域(中部エリアを除く)の朝一便目のみ、路線定期運行 ・エリアにより、1日4～11便。八束線は、1日3往復。						
運行日	西土佐・後川・東富山・西富山・蔵岡 月～土曜日(日祝日、年始1／1～3は運休) 八束 月・木曜日(祝日、年始1／1～3は運休)						
運賃	(西土佐、後川)エリア内：200円、2エリア：300円 ※西土佐エリアは通学・通院利用に限り無料。 (富山・蔵岡)エリア内：200円、2エリア：300円、2エリアを超えるもの：500円 (八束)100円～700円 ※小学生以下及び障害者は半額。						
予約受付	(西土佐・後川・富山・蔵岡)予約受付センター(JR予土線江川崎駅内) (八束)四万十市タクシー組合 ※八束線以外は、会員登録(無料)が必要 ※月～土 7：00～18：00受付(運休日除く) (八束線は、8：00～18：00受付) ※朝一番の便は前日まで。それ以外は、利用したい便の出発1時間～2時間前まで。						
協議機関	四万十市地域公共交通活性化協議会(市、住民代表、交通事業者、運行主体、高知運輸支局、県 等)						
財源対策	地域公共交通確保維持改善事業費補助金(地域内フィーダー系統)※後川、西富山・西蔵岡エリアのみ						
利用実績							
		①西土佐エリア	②東富山・東蔵岡エリア	③八束地区	④後川エリア	⑤西富山・西蔵岡エリア	
H26	利用人数	3,724人	3,200人	378人	1,161人	1,010人	
	利用料金	598,600円	1,168,650円	181,800円	324,377円	418,250円	
	市負担額	13,694,400円	7,087,305円	1,903,525円	5,870,000円	5,181,000円	
H27	利用人数	3,322人	2,763人	422人	1,466人	896人	
	利用料金	487,750円	1,089,600円	188,950円	393,346円	325,845円	
	市負担額	13,738,680円	7,206,514円	1,853,413円	4,525,000円	4,157,000円	
H28	利用人数	3,288人	3,073人	236人	1,618人	759人	
	利用料金	544,700円	1,062,750円	103,900円	443,758円	264,991円	
	市負担額	13,694,400円	7,182,250円	1,796,091円	5,547,500円	4,987,600円	
※八束地区のH25年度実績は、H25.10月～H26.3月の実証運行期間のもの。 ※市負担額：①～③は委託料。④～⑤は運行補助金として支出。							
運行に至った経過・作業等							
(H21年)3月 四万十市地域公共交通活性化協議会 設立総会 9～10月 アンケート調査、利用者ヒアリング調査 (H22年)3月 四万十市地域公共交通総合連携計画書 策定 (H23年)3月 西土佐・後川地域で実証運行開始 12月～H24.1月 運行エリア拡大について、住民説明会 (H24年)3月 富山・蔵岡地域に運行区間拡大 4月 西土佐で一部運行形態・運行時間見直し (H25年)4月 四万十市デマンド交通本格運行開始。 後川で減便、東富山・蔵岡で配車台数の変更、市街地エリアの乗降場所を追加。 10月～八束地区で路線不定期運行路線の実証運行 (H26年)10月～八束線の本格運行開始。							
今後に向けての課題							
・利用実績をもとに、運行形態、便数等の見直しを行い、利便性を損なわないように運行経費の削減を図る。							

運行路線図



平成 29 年 5 月現在

四万十市デマンド交通(ふれ愛号)利用案内

出かけるとき、電話で予約すると、近くまでお迎えに行き、ご希望の目的地付近まで(中村市街地エリアはバス停まで)お送りいたします。帰るときは、商店や病院近くのバス停などに迎えに行き、自宅近くまでお送りいたします。

※ただし、道路事情などにより、乗降場所を指定される場合もありますので、ご注意ください。

利用するには

事前に予約が必要です。

利用者登録

- ◇原則、事前に利用者登録が必要です。利用者は利用者登録用紙若しくは予約受付センターに電話して利用登録（登録料は無料）をしてください。
- ◇利用者登録用紙は本庁(企画広報課)及び西土佐総合支所(地域企画課)に備え付けています。

事前予約

■利用の前には電話で予約が必要です。

予約受付センター（月～土 7:00～18:00 受付）
予約受付番号 わで行く しまんと
フリーダイヤル 0120-019-410

- ◇予約は、利用希望日の2日前（運休日を除く）から遅くとも利用予定出発時間の2時間前まで（帰りの予約は1時間前まで。）に受付センターへご連絡ください。
- ※予定変更（キャンセル等）は直ちにご連絡ください。
- ◇朝1便目は前日までに予約が必要です。
- ※月曜日の朝1便目は、前週の土曜日までに予約が必要。
- ◇予約したい便が定員に達している場合は、予約をお断りすることがありますので、あらかじめご了承ください。

注意点

- ◇『四万十市デマンド交通』には、基本的に停留所はありませんので、ご自宅(付近)などでお待ちください。
- ※中村市街地は決められたバス停での乗降になりますので、あらかじめご了承ください。
- ◇『四万十市デマンド交通』は複数人の乗合利用となります。一般のタクシーとは異なりますので、待ち時間や到着時間が10分から20分前後する場合があります。到着時間に余裕をもってご利用ください。

料金

- 基本料金…200円
[大人(中学生以上) 1エリア内の運行]
- エリアを超える場合
2エリアの運行…300円(基本料金+100円)
2エリアを超える運行…500円(基本料金+300円)

※小人(小学生以下)並びに障害者及びその介護人は半額
(介護人は、割引対象外の場合がありますので詳しくはお問い合わせください)

※1歳未満の乳児、未就学児童(保護者1人に付き1人)は無料

運行

- 運行日 月～土曜日(日祝日、年始1/1～3は運休)
住次郎・大西ノ川・奥古尾地区は、月・水・金のみ運行。掃除谷地区は火・木のみ運行。
- 予約受付時間 月～土曜日の午前7時～午後6時
※運休日は予約受付していません。

【ご利用方法イメージ】

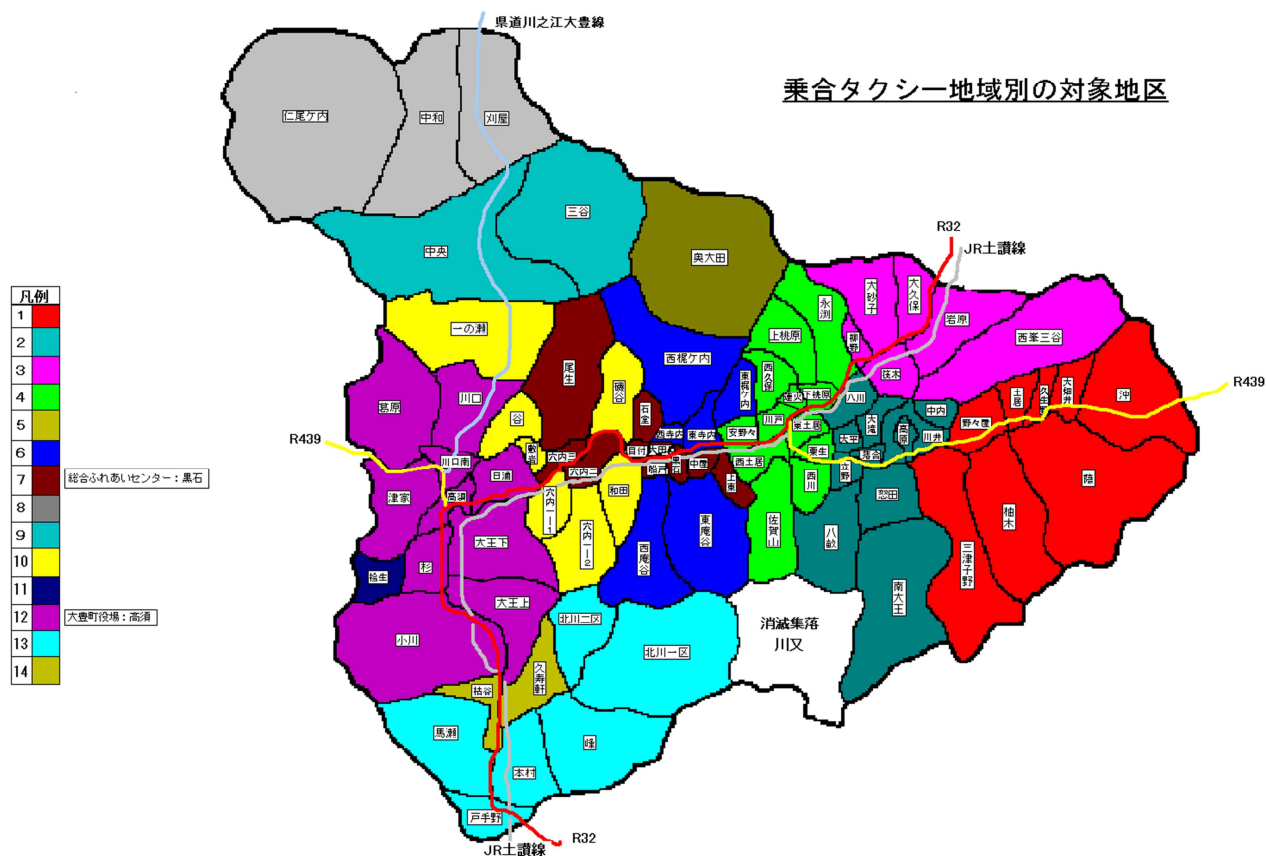


大豊町		導入形態	デマンド型乗合タクシー		
		導入地区 (導入開始)	町内全域 (H18. 5. 1～)		
運行主体	・(有)大杉ハイヤー ・(有)大豊ハイヤー ・豊永観光(有) ※3社での共同運行。運行は2週間ごとのローテーション				
運行台数	4人乗り車両3台(各社1台ずつ) + 9人乗り車両2台				
運行形態・便数	・町内14エリア～目的地までの区域運行(利用者宅～下記4か所) ・①大豊町役場周辺 ②大豊町総合ふれあいセンター周辺 ③本山町役場周辺 ④高知日赤病院周辺 ⑤JA高知病院 ⑥高知大学医学部付属病院付近 ※①～④の4か所を行き先に設定。⑤、⑥はH29. 4月より追加予定。 ・1日1便(不定期)				
運行日	週3日(月・水・金) 運行				
運賃	片道料金: 町内 500円、本山町 1,000円、南国市・高知市 2,000円 ※福祉タクシーチケットの利用可。				
予約受付	利用日の前日17時までに受付(3社共通の電話番号)に予約				
協議機関	大豊町地域公共交通会議 (町、住民代表、交通事業者、運行主体、高知運輸支局、県 等)				
財源対策	地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金(通常は過疎債)				
利用実績					
	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	
延べ輸送人員	796人	814人	851人	859人	
延べ運行台数	211台	257台	267台	270台	
1台当乗車人数	3. 8人	3. 2人	3. 2人	3. 2人	
運行助成金※	1,624,600 円	1,802,900 円	2,107,800 円	1,979,500 円	
※タクシー事業者が高知運輸支局に届出た料金と、実際の運賃収入の差額 1人乗車があった場合、1人分の乗車料金を助成					
運行に至った経過・作業等					
(H17 年) 4月 地域交通の意見交換会(高齢者を中心とした交通弱者の足の確保について) 高知県ハイヤー協会来庁(乗合タクシー特区申請について協力依頼) 6月 高知県ハイヤー協会「大豊町乗合タクシー特区構想」提案書を国に提出 7月 「特区構想」について、国土交通省から現行の制度で運行できるとの回答 10月 乗合タクシー制度について説明会 11月 乗合タクシーについて協議 (H18 年) 1月 高知県の移動サービスを考える会主催、移動サービス学習会 2月 四国運輸局へ乗合タクシー制度申請 3月 高知運輸支局からハイヤー業者3社に許可証交付 大豊町交通問題を考える会を設立 5月1日 乗合タクシー 運行開始 (H23 年) 1月 地域公共交通会議を開催 乗合タクシー継続運行申請に伴う会議 3月 四国運輸局へ乗合タクシー継続運行申請 4月 高知運輸支局からハイヤー業者3社に許可証交付					
今後に向けての課題					
数名で乗り合わせた際、最初に乗った乗客の目的地と、2番目3番目に乗ってくる乗客の乗車地が、必ずしも運行ルート上でつながるわけではないので、最初の乗客の乗車時間が長くなり、負担となっている。 往復の場合、帰りも同様。					

管内図

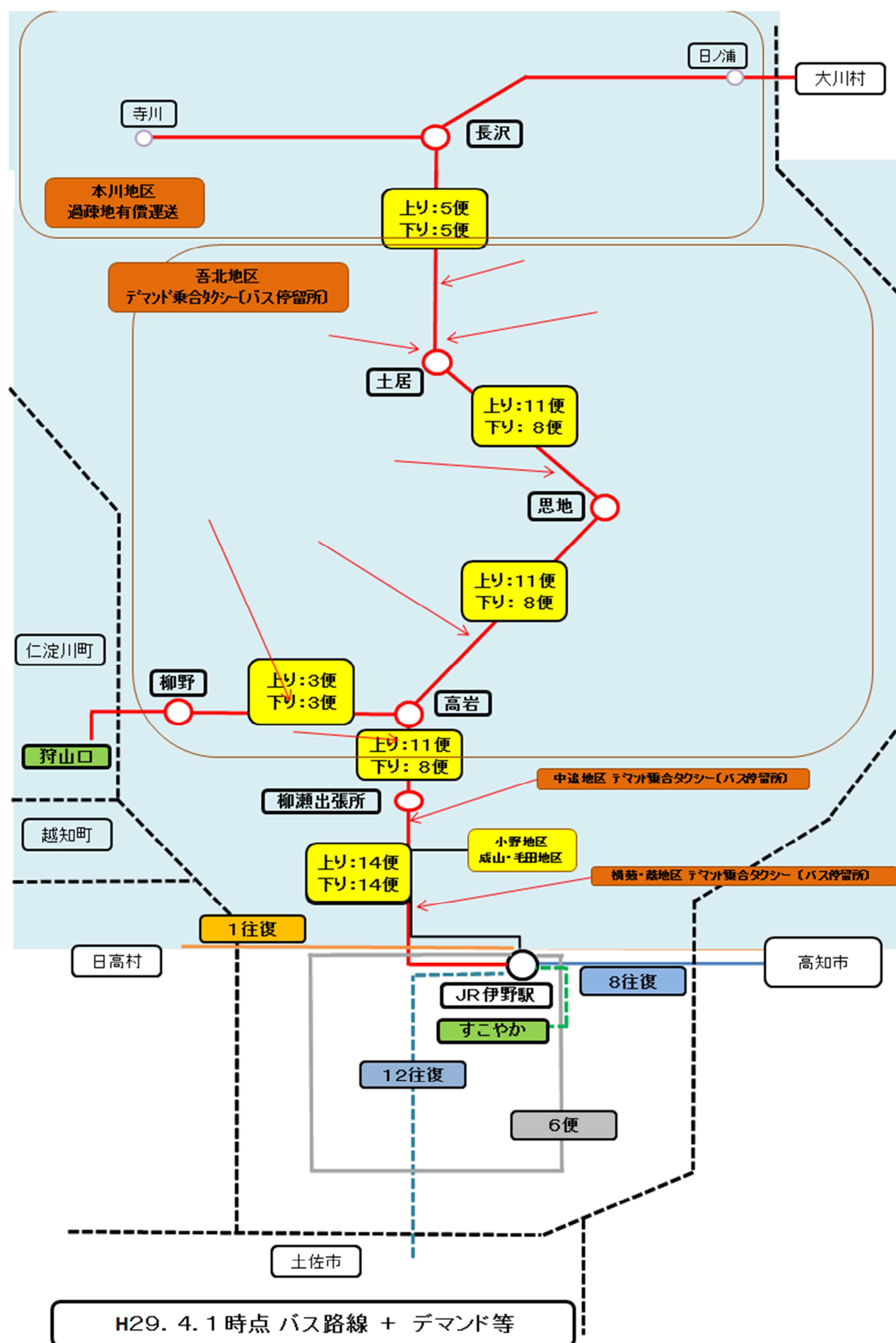


乗合タクシー地域別の対象地区

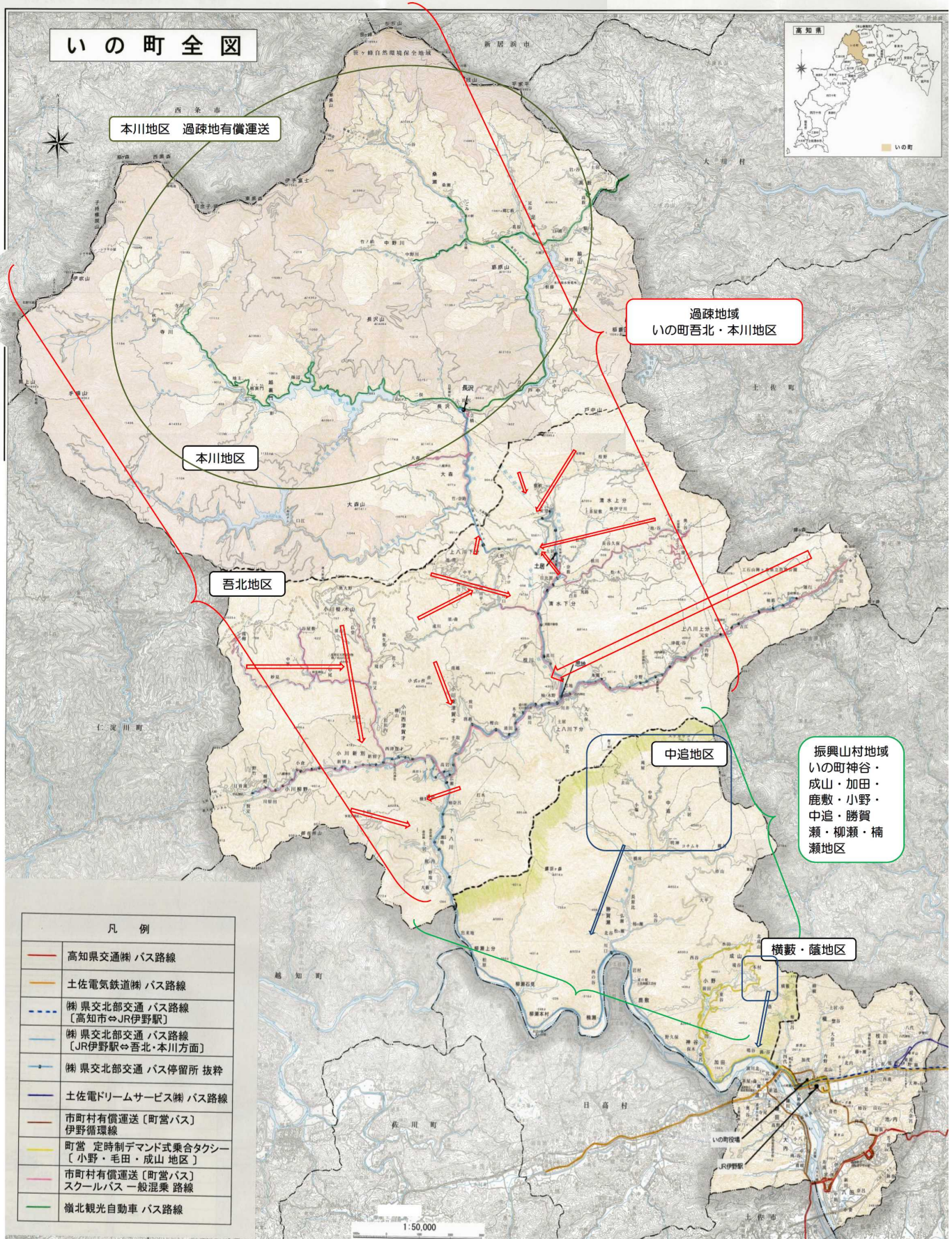


いの町		導入形態	デマンド型乗合タクシー			
		導入地区 (導入開始)	①小野 (H19.9月～) 毛田、成山地区 (H20.10月～) ②吾北、中追、横藪・蔭地区 (H24.6月～)			
運行 主体	①(有)明神ハイヤー ②(有)吾北ハイヤー (吾北地区)、大はらハイヤー (中追地区) (有)明神ハイヤー (横藪・蔭地区) ※高知県ハイヤー協会の支部と協議、手順を踏んで選定。					
運行台数	①5台 (予備車1台必要) ②3台 (最低車両数: 2台) ※道路運送法第4条許可申請における処理方針で、最低車両数が決められている。					
運行形態 ・便数	① (路線定期運行+予約運行) 1日3便、廃止路線バス停～いの町中心部 ② (区域運行+バス停への着時間設定→路線バスへ接続+予約運行) 路線バスの通過時刻に合わせて運行、自宅付近～最寄りのバス停					
運行日	①小野地区: 毎日運行 毛田地区: 毎週火・金曜 成山地区: 毎週水・金曜 ②毎日運行 (吾北地区では、集落ごとに予約優先曜日あり)					
運賃	② 乗車1人 300円 (成山地区は500円) ②1乗車1人 300円 ※小児運賃半額					
予約受付	①朝1便目は前日まで 昼・夜便は利用する3時間前までに運行業者に予約 ②利用日前日の9時～19時の間に、運行業者に予約					
協議機関	いの町地域公共交通活性化協議会、いの町地域公共交通会議 (町、住民代表、交通事業者、運行主体、高知運輸支局、県、警察、道路管理者、学識経験者 等)					
財源対策	過疎債等					
利用実績						
※1運行ごとの実際のタクシーメーター料金で委託契約 (運賃は町収入としているので、実質差額を負担。)						
		H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	合計
①小野、毛田、 成山地区	輸送人員	1,151 人	975 人	1,143 人	1,227 人	4,496 人
	運賃収入	433,900 円	385,750 円	456,750 円	492,990 円	1,769,390 円
	運行委託料※	1,792,930 円	1,507,180 円	1,636,330 円	1,601,020 円	6,537,460 円
②吾北、中追、 横藪・蔭地区	輸送人員	4,354 人	4,637 人	4710 人	4886 人	18,587 人
	運賃収入	1,301,100 円	1,390,050 円	1,439,700 円	1,465,800 円	5,596,650 円
	運行委託料※	5,027,960 円	7,853,820 円	8,616,850 円	8,881,760 円	30,380,390 円
運行に至った経過・作業等						
(S45 年) 11月～ 県交通の路線廃止に伴う代替路線 (町営: 市町村有償運送) として、1日3便運行開始。 (H19 年) 9月～ 定時制デマンド式乗合タクシーに移行 (小野線) (H20 年) 10月～ 毛田 (毎週火曜日)、成山 (毎週水曜日) 地区に延伸 (H23 年) 9月～ 毛田・成山地区 毎週金曜日運行開始 (週2日運行) (H24 年) 6月～吾北地区、中追地区、横藪・蔭地区に運行範囲拡大 (毎日運行) (H25 年) 4月～吾北地区内の県北部交通休止区間 (思地～若宮) に運行範囲拡大						
今後に向けての課題						
・過疎地域・山村振興地域以外の交通空白地域の解消						

運行路線図



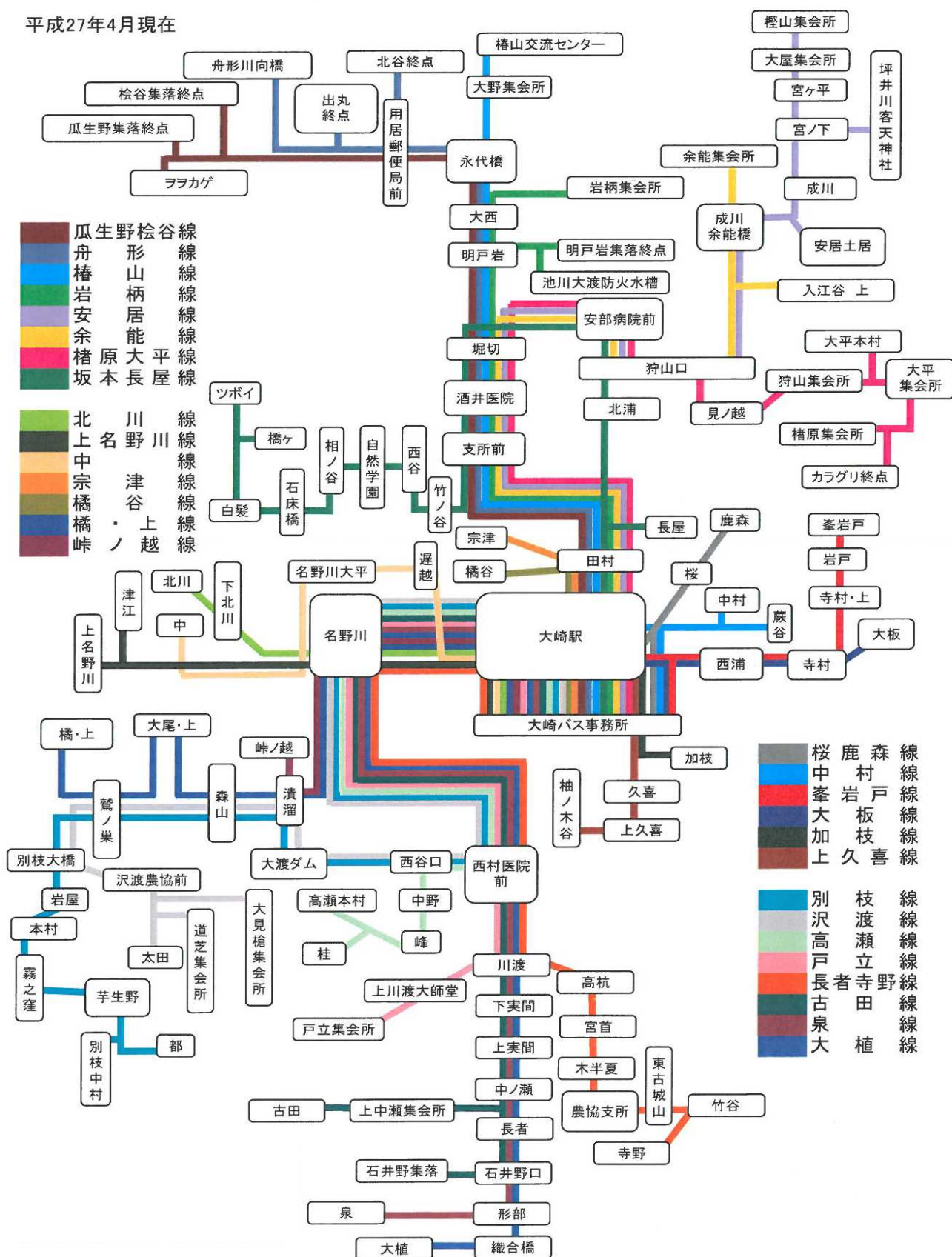
いの町		導入形態	公共交通空白地有償運送	
		導入地区 (導入開始)	本川地区 (H23.4月～)	
運行主体	社会福祉法人 いの町社会福祉協議会			
運行台数	25台 ※すべて運転者の自家用車			
車両設備	有償運送車両の表示「運送者・有償運送車両・登録番号」(マグネットシート)			
	公共交通空白地有償運送 登録証の写し、運転者証			
	損害賠償保険に全車加入			
	対人：無制限、対物：300万円以上、搭乗者：500万円以上			
運転者	21名 ※区長、民生委員、社協職員、森林組合職員、町職員(兼務) 等(稼働運転者数 6名)			
	報酬	売り上げの85%(残りは社協)		
	自己負担	車検・修理費、自動車保険料、燃料代		
	要件	免許取得後5年以上経過した人で、78歳以下の人		
運行時間	特に制限なし(利用日の3日前までに予約)			
運賃	初乗り6km未満 500円+6km超過後は1kmあたり100円増額(1kmに満たない部分は切り捨て) 待ち時間：30分あたり100円 迎車(行政区を超えるもの)：200円			
運行範囲	いの町本川を発地もしくは着地とする範囲			
登録会員	本川地区住民のうち 60名(年会費 1,000円)			
連絡体制				
協議機関	いの町有償運送運営協議会 (町、住民代表、交通事業者、運行主体、高知運輸支局、県、警察、道路管理者、学識経験者 等 ※いの町地域公共交通活性化協議会と同一委員)			
役場負担	初期費用：ステッカー代、連絡用携帯電話代、市町村有償運送等運転者講習受講料			
利用実績	(H25年度) 件数：302件 売上：847,300円 (H26年度) 件数：121件 売上：638,300円 (H27年度) 件数：103件 売上：686,000円 (H28年度) 件数：104件 売上：625,000円			
運行に至った経緯の概要・作業等				
<p>(H17年) 地元タクシー業者 廃業 交通網が貧弱な本川地区では、日常生活に車が不可欠であるが、車を運転しない(できない)高齢者などの地域住民にとって、不便な状態が続いていた。</p> <p>(H22年) 11月 いの町有償運送運営協議会 設置 12月 本川地区交通空白地有償運送について地区住民への説明会(町主催)</p> <p>(H23年) 1月 社会福祉法人 いの町社会福祉協議会を運営主体者として、取り組み開始 (研修、講習会、運転者への説明会、交通安全講習会 等) 3月 2回目 住民説明会 具体的な運営方法について、運営協議会で承認 4月 運行開始(実質運行開始は 6月)</p> <p>(H25年) 4月 運送料金の見直し(1kmあたり100円→現行) (近距離(本川地区内)での利用が7割を超える中での収入の確保と、近距離利用者の利用控えを解消するため。)</p>				
今後に向けての課題				
・運転手増員のための資金不足 ・事業運営のための資金確保				



仁淀川町		導入形態	路線バス（市町村営）			
		導入地区 （導入開始）	町内全域30路線(H19.8月) ※町民バス（10路線）と民間バスを補完			
運行主体	有限会社 仁淀川観光 ※町からの指定管理者の指定を受ける。					
運行台数	14人乗り車両 3台（町所有車両を有限会社 仁淀川観光へ無償貸与）					
運行日・ 運行ルート	月曜日：4路線 火曜日：6路線 水曜日：6路線 木曜日：6路線 第1, 3木曜日：1路線 金曜日：5路線 第1, 3金曜日：1路線 ※全て1日1往復運行。 ※祝日は運休。 ※一部デマンド運行区間あり。（前日のお昼までに予約） ※国道33号及び国道439号では既存のバス停を利用。それ以外は乗降自由区間。					
運賃	片道 大人200円（中学生以上）、小人（小学生）100円 ※身体障害者手帳等を持っている人は半額。 ※幼児（小学校入学前）は無料。					
協議機関	仁淀川町地域公共交通会議 （町、住民代表、交通事業者、運行主体、高知運輸支局、県 等）					
財源対策	中山間地域生活支援総合補助金（移動手段確保支援事業）、過疎債（平成24年度まで）					
利用実績						
	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	合計	
池川（利用者数・往復合計）	3,053 人	2,672 人	2,578 人	2,660 人	10,963 人	
吾川（利用者数・往復合計）	4,080 人	3,940 人	3,790 人	3,345 人	15,155 人	
仁淀（利用者数・往復合計）	1,749 人	1,808 人	1,759 人	1,579 人	6,895 人	
利用者 計	8,882 人	8,420 人	8,127 人	7,584 人	33,013 人	
運賃収入	1,615,000 円	1,493,645 円	1,482,500 円	1,384,400 円	5,975,545 円	
運行委託料	14,700,000 円	17,130,000 円	17,820,000 円	18,024,000 円	67,674,000 円	
運行に至った経過・作業等						
<p>仁淀川町行政改革大綱に住民の利便性向上のための見直しが記載される。 （吾川村実施の患者輸送バスの取扱いが課題として残る。） 平成17年8月の合併後、12月の住民アンケートから交通弱者の課題が浮かび上がる。</p> <p>(H18年) 4月 町長、副町長が地域に伺い懇談会を開催 5月 仁淀川町営バス運行管理検討会を行い、以後協議を重ねる 7月 町職員による地域訪問を実施 8月 既存バス乗客への聞き取り調査を実施 12月 町議会定例会でコミュニティバスの設置、管理条例が可決</p> <p>(H19年) 8月 運行開始</p>						
今後に向けての課題						
<p>・車両の更新</p> <p>・運転手の確保</p>						

仁淀川町コミュニティバス路線図

平成27年4月現在



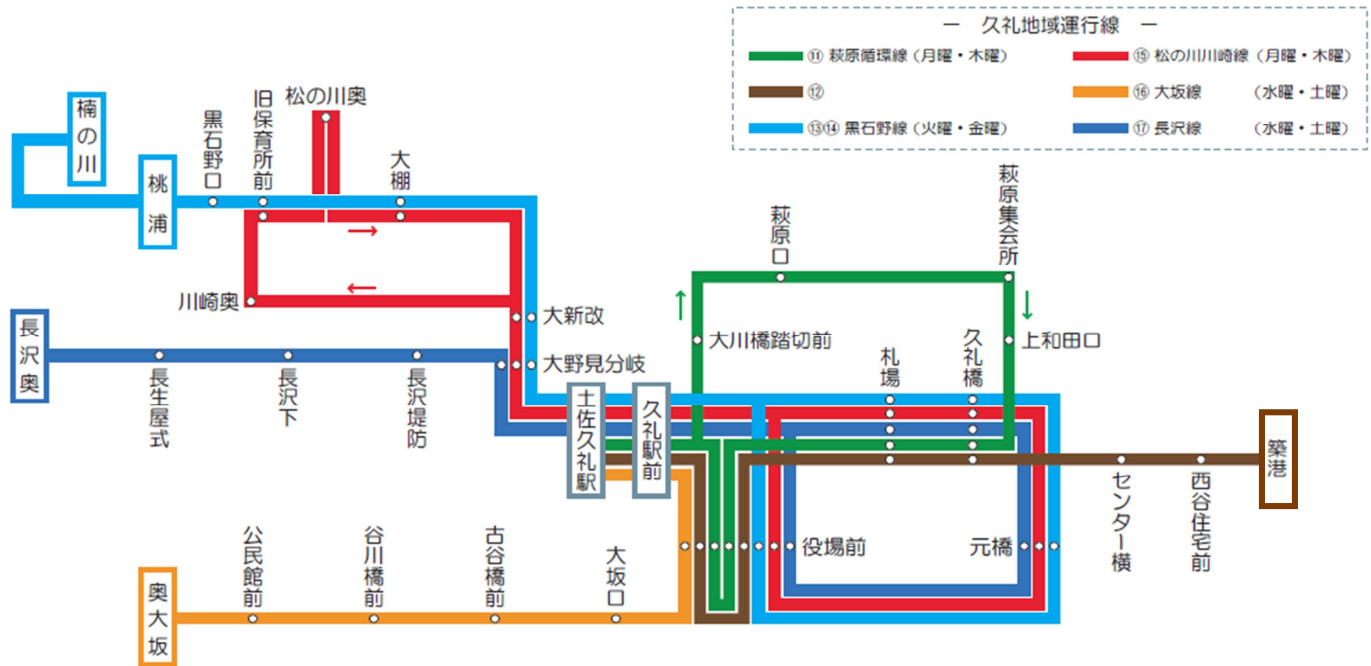
※全て大崎駅を発着

※上久喜線、上名野川線、橘・上線、中村線、北川線、瓜生野桼谷線、舟形線、余能線、坂本線、岩柄線、安居線、椿山線、別枝線、大野 泉線、古田線、高瀬線、沢渡線の一部でダイヤモンド運行。

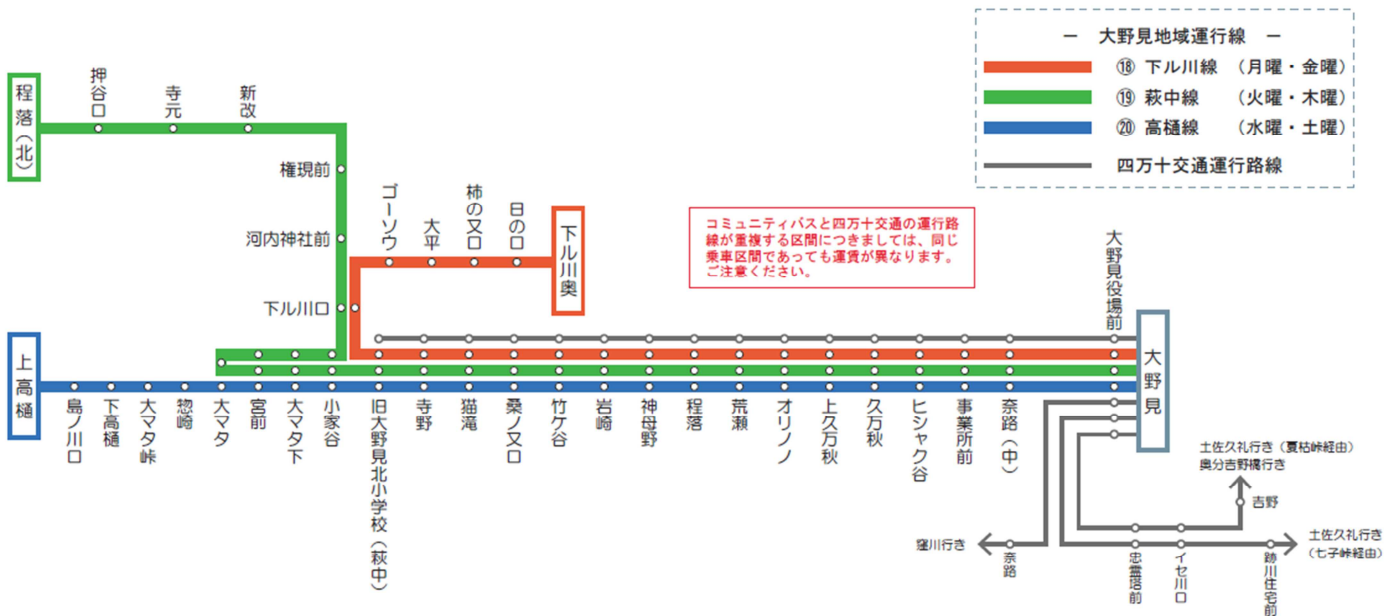
中土佐町		導入形態	路線バス（民営）			
		導入地区 （導入開始）	①久礼地区：7系統 ②大野見地区：3系統 （H25.1月～9月 無料で実証運行 6系統） ※3月途中より+1系統となる （H25.10月～本格運行） （H27.10月に路線再編：計10系統となる）			
運行主体	（有）中土佐ハイヤー ※公募型プロポーザル方式により、選定。					
運行台数	10人乗りワゴン車 2台+予備車（運行主体所有車両） ※町が購入し、本格運行開始直前に無償譲渡した。					
運行日・ 運行 ルート		曜日	久礼地区		大野見地区	
		月曜日	萩原循環線・松の川川崎線		下ル川線	
		火曜日	黒石野線・大野鎌田線		萩中線	
		水曜日	長沢線・大坂線		高樋線	
		木曜日	萩原循環線・松の川川崎線		萩中線	
		金曜日	黒石野線・大野鎌田線		下ル川線	
		土曜日	長沢線・大坂線		高樋線	
		※路線不定期運行。黒石野線には黒石野線（楠の川）を含む				
運賃	一回の乗降で 大人 100円、小人 50円 ※65歳以上は無料。（中土佐町高齢者等外出支援・路線バス無料化事業 適用）					
協議機関	中土佐町地域公共交通会議 （町、住民代表、交通事業者、高知運輸支局、県、警察、道路管理者等）					
財源対策	・地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域内フィーダー系統）、過疎債					
利用実績						
	H26.10～H27.9月		H27.10～H28.9月		H28.10～H29.9月	
	久礼地区	大野見地区	久礼地区	大野見地区	久礼地区	大野見地区
利用人数	1,943人	1,376人	2,193人	5,186人	2,047人	4,889人
運賃収入	331,900円		736,000円		691,000円	
補助金額	9,993,000円（※1）		15,650,000円（※1）		15,190,000円（※1）	
※1国土交通省「地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域内フィーダー系統）」を含む。						
運行に至った経過・作業等						
(H23年)8月～12月 集落別によるヒアリング及び意見交換会						
(H24年)3月 「中土佐町生活交通再編計画」策定						
11月 住民説明会						
12月 交通事業者との協議						
(H25年)1月 コミュニティバス（6系統）実証運行						
同時に利用者アンケート（バス車内に設置、回答）						
バス乗務員による利用者意見の聞き取り調査 等実施						
2月 交通事業者との協議（運行の状況や住民の意見等、今後の調整についてのヒアリング）						
3月 生活交通ネットワーク計画（地域内フィーダー系統確保維持計画）策定						
4月 運行事業者選定（プロポーザル方式）						
6月 中土佐町公共交通会議						
8月 中土佐町地域公共交通確保維持改善事業による路線運行に関しての協定を締結						
道路運送法第4条一般乗合の許可申請（9月に許可となる）						
10月～ 本格運行開始						
今後に向けての課題						
高齢化による利用者の減少が課題となるが、継続運行するためには利用促進活動や状況に応じた運行内容の変更を行っていく必要がある。						

運行路線図

■久礼地区運行路線



■大野見地区運行路線

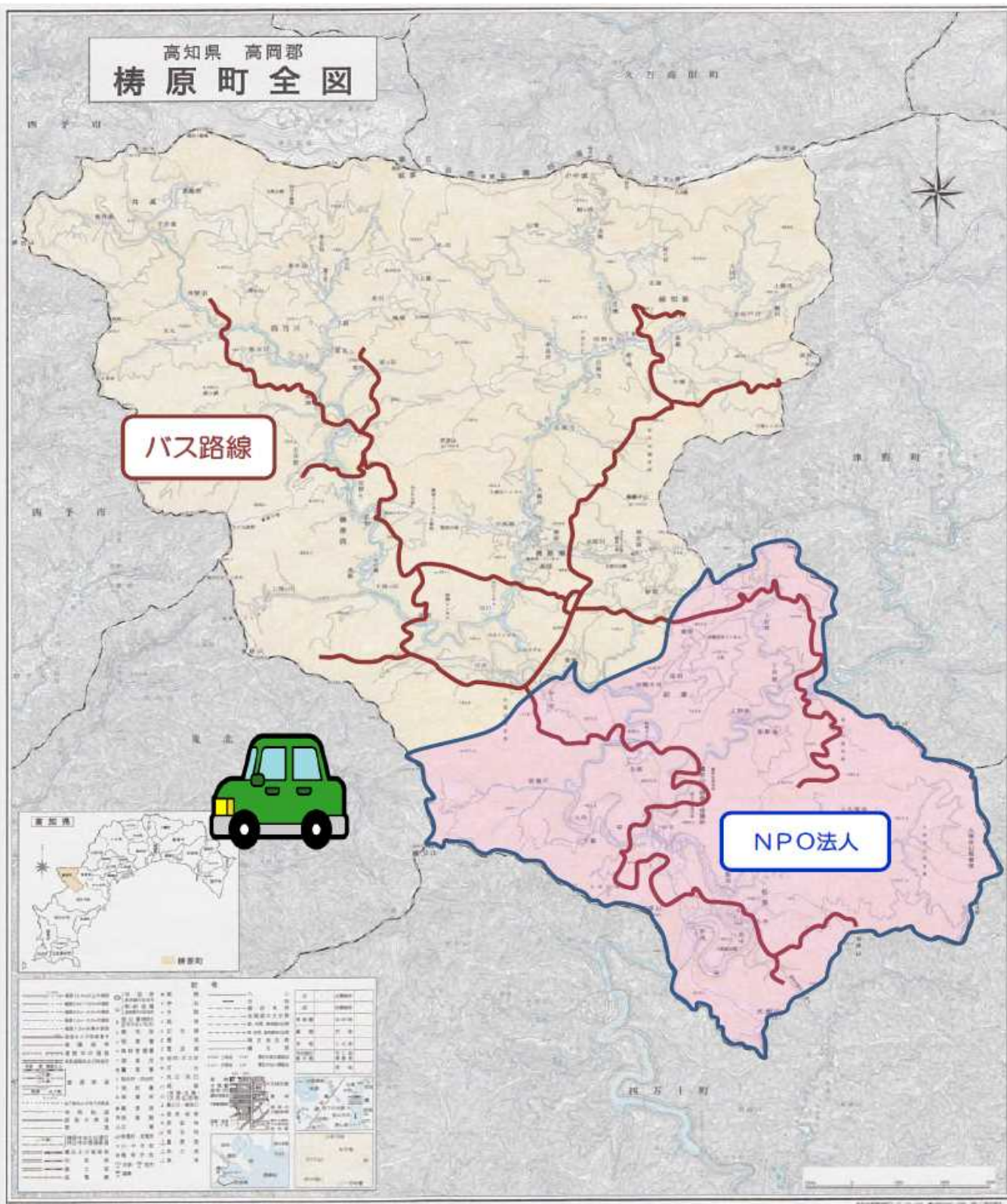


梶原町		導入形態	交通空白地有償運送
		導入地区 (導入開始)	初瀬区、松原区 (H23.5月～)
運行主体	NPO法人 絆		
運行台数	5台(うち運転者の自家用車 3台、町からの無償貸与車両 2台)		
車両設備	有償運送車両の表示「運送者・有償運送車両・登録番号」(マグネットシート) 交通空白地有償運送 登録証の写し、運転者証 損害賠償保険に全車加入(対人:無制限、対物:無制限、搭乗者:無制限)		
運転者	16名 ※退職者、農業者、主婦 等		
	報酬	運転者の自家用車使用:料金の8割 町からの貸与車両使用:料金の6割	
	自己負担	車検・修理代、自動車保険料、燃料代、交通空白地有償運送等運転者講習受講料	
	要件	交通空白地有償運送等運転者講習受講者・特にないが、目安として70歳まで	
運行時間	7:00～21:00(前日までに予約)		
運賃・ 運行範囲	地区内	片道	300円
	初瀬区～松原区	片道	500円
	初瀬区～梶原町東区、津野町新田	片道	1,000円
	松原区～梶原町東区、津野町新田、四万十町大正	片道	1,500円
登録会員	初瀬・松原区内住民及び親族等 約500名		
連絡体制	利用者→連絡責任者に申し込み→登録運転者→業務の開始、終了を連絡責任者に連絡 運転者は、乗務の都度、運行記録を作成 月に一度、運行記録をもとに、収受した料金から運転者の報酬を精算		
協議機関	ゆすはら ふっとわーく推進協議会 (町、住民代表、交通事業者、運行主体、高知運輸支局、商工会、シルバー人材センター等)		
町負担	初期費用:車両購入(エスティマ 2台) その他:H24年度 移動支援利用促進事業(利用者に対し、5回に1回無料券を配布。) H25,H26,H27年度 移動手段支援利用促進事業委託 (利用者1人に対し、300円を町からNPO法人に補助。250千円を上限。)		
利用実績	(H26年度) 件数:1,056件 売上高:967,400円 (H27年度) 件数: 835件 売上高:730,800円 (H28年度) 件数: 890件 売上高:799,900円		
運行に至った経過・作業等			
(H17年) 高齢者保健福祉計画を作成する際、町内のニーズ調査を行った中で、移動手段確保への要望が上がる。 (H18年) 県内の先進地視察(さわか高知、大豊町の乗合タクシー) (H19年) 町の関係部署協働で取り組むことを確認。 県・地域支援企画員や保健福祉課、須崎福祉保健所の協力(調査票作成、聞き取り調査人員)を得て、再度実態調査。結果を分析していく中で、初瀬区・松原区での移動手段確保の必要性が浮かび上がる。地区関係者と上勝町有償運送視察。 (H20年) 移動手段の確保を考える意見交換会(2回開催) ハイヤー業者との話し合い(2回開催) タクシー、バス業者に梶原町の実態を説明。 (H21年) 移動手段確保について区長会 情報収集活動(島根県飯南町、高知運輸支局問い合わせ) (H22年) 移動手段確保検討会 再開(高知運輸支局職員を迎えて) 2回目の検討会で初瀬・松原という地区限定について賛意を得る 町の事業を一部委託することで、業者との合意 (委託事業:月1回のいきいきふれあい広場への送迎、 病院等への送迎用タクシーチケット発行(雲の上いきいきチケット) スクールバス事業(小学校が3校→1校に統合したことに伴う) 平成23年3月 ゆすはらふっとわーく推進協議会 設置 4月 NPO法人「絆」設立(初瀬区長 矢野氏が理事長) 5月 交通空白地有償運送業務開始 →利用者からはおおむね好評。 タクシー事業者からの不満もなし(平成24年3月時点)			

今後に向けての課題

- ・運転者のモチベーションを保つための取り組み
(独自の取り組みとして、車いすの使い方の講習や安全運転講習（警察）を実施)
- ・運行範囲の拡大
- ・利用者の利便性のアップ（受診の待ち時間の取扱いや受診援助などのサービス向上）

管内図



四万十町		導入形態	路線バス（民営）		
		導入地区 （導入開始）	①十和地区：H23.9月～4路線 H24.8月～＋2路線 ②大正地区：H24.10月～3路線 ③窪川地区：H25.12月～6路線 ④　　〃　　H27.2月～4路線		
運行主体	①③④株式会社　四万十交通　　②有限会社　丸三ハイヤー ※基本的には運行地域の路線バス業者（既存バスの見直しを含むため）				
運行台数	①12人乗り車両／2台　　②10人乗り車両／1台　　③12人乗り車両／1台　　④25人乗り車両／1台				
運行日・ 運行ルート	※別紙　運行ルート図　参照。 ※いずれの路線も、ＪＲ予土線停車駅や診療所へのアクセス、買い物等を意識したダイヤで運行。				
運賃	一回の乗降で　１００円				
協議機関	四万十町地域公共交通会議（町、住民代表、交通事業者、運行主体、高知運輸支局　等）				
財源対策	地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域内フィーダー系統）				
利用実績					
年度		十和地区	大正地区	窪川地区	
H26	輸送人員	4,872人	1,850人	7,113人	
	運賃収入	477,062円	185,000円	632,200円	
	運行委託料	8,598,317円	5,160,675円	3,181,851円	
H27	輸送人員	5,322人	2,434人	12,573人	
	運賃収入	785,563円	243,400円	1,565,480円	
	運行委託料	8,354,022円	5,146,919円	9,396,428円	
H28	輸送人員	5,433人	2,615人	12,669人	
	運賃収入	820,332円	261,500円	1,517,736円	
	運行委託料	7,932,140円	5,112,568円	9,668,430円	
※平成２５年度窪川地区の運行期間は平成２５年１２月～平成２６年３月の４ヵ月間。（試験期間につき運賃無料。） ※平成２６年度窪川地区第１期の平成２６年４月～９月の６ヵ月間は実証運行期間。（試験期間につき運賃無料。） ※平成２６年度窪川地区第２期の平成２７年２月～３月の２ヵ月間は実証運行期間。（試験期間につき運賃無料。） ※平成２７年度窪川地区第２期の平成２７年４月～９月の６ヵ月間は実証運行期間。（試験期間につき運賃無料。）					
運行に至った経過・作業等					
(H20年)	9月	第１回地域公共交通会議開催			
(H21年)	1～3月	利用実態アンケート調査 地域座談会（３ヶ所）、事業者ヒアリング実施 四万十町生活交通再編基本方針お酔い行動計画策定			
(H23年)	2～8月	十和地域での実証運行開始			
	9月	4路線の本格運行開始			
(H24年)	8月	2路線の本格運行開始			
	10月	大正地域3路線の本格運行開始			
	3月	窪川地域生活交通再編計画の策定			
(H25年)	12月	窪川地域6路線の実証運行開始			
(H26年)	10月	窪川地域6路線の本格運行開始			
(H27年)	2月	窪川地域4路線での第２期実証運行開始			
	10月	窪川地域4路線の本格運行開始			
今後に向けての課題					
・財源の確保 ・バス停までも移動できない方への対応（福祉車両、福祉タクシー券の充実等） ・既存バス（路線、スクールバス、病院バス）との調整 ・タクシー事業者への影響（デマンドの導入検討） ・外出機会の創出					

運行路線図

十和地区

平成29年
10月2日 (月)
運行便より



裏面に
新しい時刻表を
掲載しています。

- 戸口・戸川線 (4往復/月曜)
- 地吉線 (5往復/火曜)
- 野々川線 (4往復/木曜)
- 広井線 (5回/木曜)
- 古城線 (5往復/金曜)
- 大道線 (4往復/金曜)

大正地区



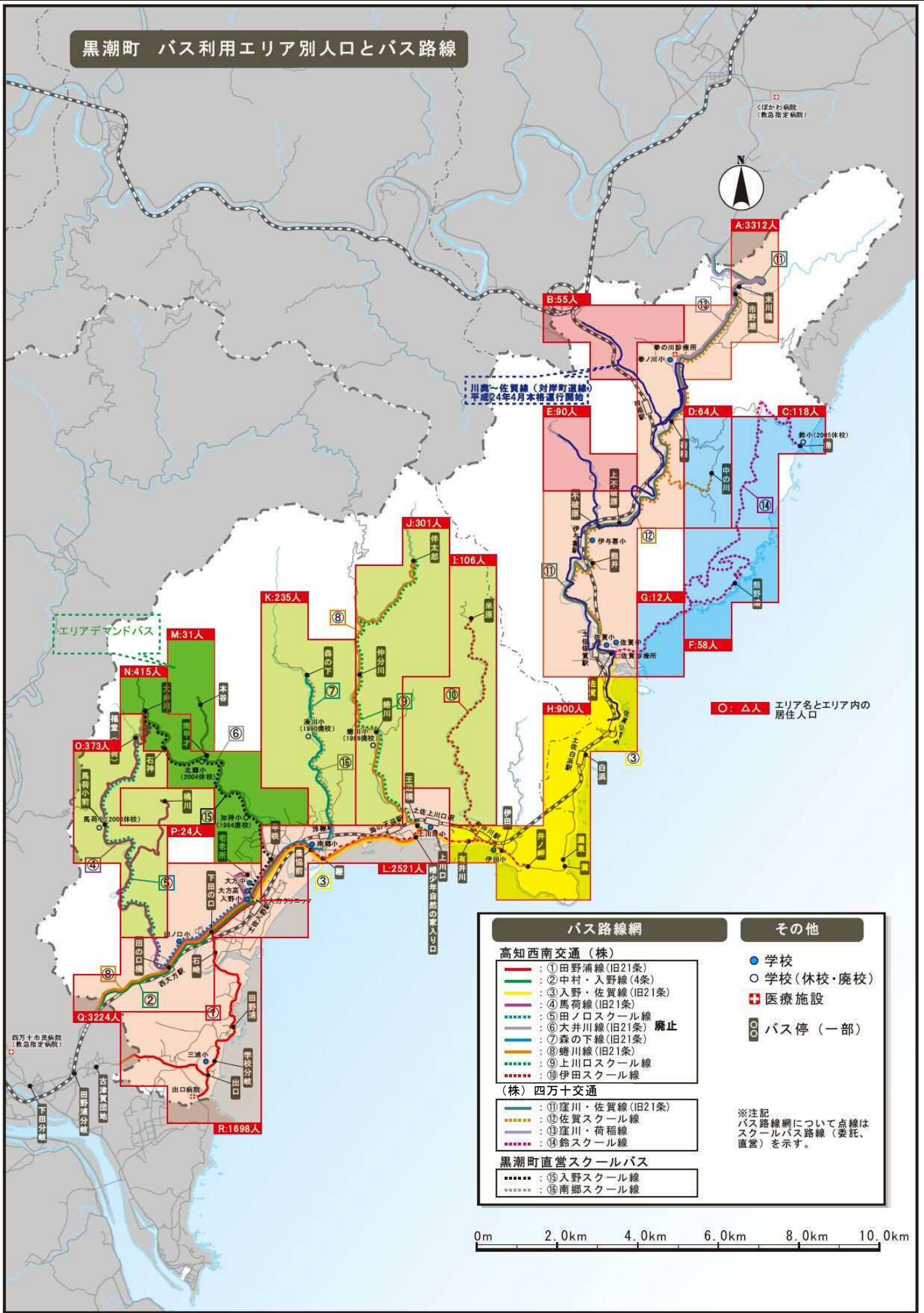
窪川地区



黒潮町		導入形態	路線バス（民営）	
		導入地区 （導入開始）	町内全域 12 路線（S46.4 月～） ※H24.4 月～川奥地区・市野々川地区で新規路線運行。 ※H25.5 月～大方地区・大井川線でエリアデマンドバスを運行。	
運行主体	佐賀地区：(株)四万十交通 大方地区：高知西南交通(株)			
運行台数	9 台（(株)四万十交通 2 台 高知西南交通(株) 7 台）			
運行日・ 運行ルート	※別紙 バス路線網図 参照 ※北郷加持エリアデマンドバス （運行日）月・水・金曜日（5 往復／1 日） （運行形態）区域運行（自宅近く⇔土佐くろしお鉄道入野駅）			
運賃	距離制 ※割引制度：障害者割引（身体・精神・療育）、小人割引 ※北郷加持エリアデマンドバス：1 乗車 100 円			
協議機関	黒潮町地域公共交通活性化協議会			
財源対策	地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域内フィーダー系統）、 高知県バス運行対策費補助金、特別交付税			
利用実績				
※路線バス				
	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	
乗車人員	16,799 人	14,273 人	18,370 人	
運賃収入	4,873,351 円	4,458,761 円	4,719,138 円	
運行補助金	36,128,000 円	37,059,000 円	32,639,000 円	
※うち 北郷加持エリアデマンドバス（平成 25 年度の運行期間は H25.5 月～H26.3 月）				
	平成 26 年度（デマンド運行）	平成 27 年度（デマンド運行）	平成 28 年度	
運行日数	月・水・金曜日	月・水・金曜日	月・水・金曜日	
運行便数	1 日 5 往復 （予約のあった時のみ運行）	1 日 5 往復 （予約のあった時のみ運行）	1 日 5 往復 （予約のあった時のみ運行）	
利用者数	1,302 人	1,250 人	1,566 人	
運行費用	3,707 千円	3,159 千円	3,452 千円	
運行に至った経過・作業等				
※川奥～拳ノ川～佐賀線、川奥～拳ノ川～かしま荘線の新規運行に至る経過から記載。 (H21 年) 2 月 黒潮町地域公共交通活性化協議会 設立 10～12 月 ・バス利用実態調査 ・全世帯アンケート調査 ・地区懇談会（ワークショップ）：旧小学校区を基本とした 19 会場で開催 (H22 年) 3 月 「黒潮町地域公共交通総合連携計画」完成 初年度事業として、交通空白地域の解消を目標とした、路線バスの実証運行を計画 (H23 年) 1～3 月 市野々川地区～佐賀駅、川奥地区～佐賀駅で路線バスの実証運行 同時に乗車状況調査、利用者アンケート調査、住民アンケート調査を実施 7～H24.2 月 川奥～（拳ノ川・市野々川）～佐賀線・佐賀かしま荘で路線バスの実証運行 (H24 年) 4 月 本格運行開始 (H25 年) 5 月 大方地区・大井川線で「北郷加持エリアデマンドバス」の実証運行開始 8 月 北郷加持エリア（6 集落）でデマンドバスに関する意見交換会を開催 (H26 年) 4 月 「北郷加持エリアデマンドバス」の本格運行開始				
今後に向けての課題				
・町内フィーダー線の再編（運行モードの見直し） ・町内市街地への 2 次交通の導入検討（循環型路線バス） ・バス運賃設定の見直し（100 円刻み運賃の導入） ・町内スクールバスの再編				

バス路線網図

黒潮町 バス利用エリア別人口とバス路線



中山間地域における移動手段確保に向けた市町村の取組状況一覧

市町村	項目	複数市町村にまたがる路線バス	単一市町村内で完結している路線バス				スクールバス		タクシー会社 (所在地)
		民営 (線ナンバー)	民営 (線ナンバー)	市町村営 (白ナンバー)	運行地域	路線数 (系統数)	○スクール 専用バス	一般客運乗 ○有償 ●無償	
		運行会社	運行会社	○有償、△福祉有償、 ●無償					
安芸地域	東洋町	東部交通、徳島南部バス		● (福祉バス(高齢者、障害者))	野根地区	2路線			1社
	室戸市	東部交通					○		6社
	北川村	東部交通		○	村内全域	4路線 (一部デマンド)	○		なし
	奈半利町	東部交通							2社
	田野町	東部交通		○コミュニティバス (たのくるバス)	町内全域	4路線 (定時定路線)			1社
	馬路村	東部交通							1社
	安田町	東部交通					○	●	2社
	安芸市	東部交通		○(安芸市元気バス) △(福祉移送サービス)	○市内全域 △安芸市・芸西村・安田町・ 田野町	○7路線 △利用者の自宅～福祉・ 保健・医療施設の間			5社
	芸西村	東部交通		○ ● (ふれあいセンター利用者等)	くろ鉄和食駅～瓜生谷～道家 村内のふれあいセンター等を結 ぶ循環線	1路線 1路線			1社
物部川地域	香美市	とさでん交通	JR四国バス (土佐山田～大橋)	○	土佐山田町内 香北町内 物部町内	4路線 9路線(区域運行) 5路線 4路線(一部デマンド) 9路線(区域運行)	○	●	10社
	香南市	とさでん交通、東部交通		○	市内全域	12路線(香我美・夜須で一部デマンド)		●	3社
	南国市	とさでん交通、北部交通、東部交通	とさでん交通		医大～久枝線 植田～JA高知病院線 前浜～JA高知病院線	3路線	○		6社
	高知市	とさでん交通、北部交通、東部交通	とさでん交通、北部交通		市内全域	54系統	○		34社
嶺北地域	大豊町	とさでん交通		● (誰でも利用可)	大豊町中学校～立川方面 総合ふれあいセンター～西峰方面	2路線	○	●	3社
	本山町	とさでん交通、嶺北観光					○		1社
	土佐町	とさでん交通、嶺北観光	嶺北観光				○		2社
	大川村	嶺北観光		●(福祉バス(利用登録した高齢者、通院患者))	村内全域～幹線バスとの乗換場所等	区域運行	○		なし
仁淀川地域	いの町	とさでん交通、北部交通、嶺北観光		○	町中心部～天王地区 (循環線)	1路線	○	○	4社
	土佐市	とさでん交通	とさでん交通 (ドラゴンバス)		・市野々～伊野線 ・宇佐～伊野線	2路線			6社
	日高村			○	村内全域～JR伊野駅	1路線(廃止代替) 区域運行			1社
	佐川町	黒岩観光	黒岩観光	○	緑:古畑～文化センター 西佐川～古畑 白:町内全域	緑:2路線 白:9路線			4社
	越知町	黒岩観光	黒岩観光	○	町内全域	12路線	○		1社
	仁淀川町	黒岩観光		○	町内全域	町民バス10路線 コミュニティバス30路線 (一部デマンド)		●	3社
	須崎市	とさでん交通、高陵交通		○	市中心部～中ノ島地区	1路線	○	○	3社
高橋地域	津野町	高陵交通		○コミュニティバス (にこにこバス、らんらんバス、るんるんバス、あいあいバス)	町内全域	25路線	○	○	2社
	橋原町	高陵交通	高陵交通		町内全域	3路線	○	○	3社
	中土佐町	高陵交通、四万十交通	中土佐ハイヤー (コミュニティバス)		・久礼地区・大野見地区	路線不定期運行	○		1社
	四万十町	四万十交通	四万十交通		町内全域	23路線	○	●	4社
			四万十交通(コミュニティバス)		十和地区	6路線			
丸三ハイヤー(コミュニティバス)				大正地区	4路線				
幡多地域	黒潮町	西南交通、四万十交通	四万十交通 西南交通		佐賀地区 大方地区	3路線 9路線 (一部デマンド運行)	○通学通園バス(●無償) ●路線バスのスクール対応便		1社
	四万十市	西南交通	西南交通	○	市内全域	10路線(17系統)	○	●	6社
			西南交通 (中村まちバス)		中村市街地、具同地区、 東山地区の一部	路線不定期運行			
			ふれ愛号		後川、西富山、蔵岡地区	区域運行			
	土佐清水市	西南交通	西南交通		清水～窪津～足摺岬	1路線	○		3社
	宿毛市	西南交通、宇和島自動車	西南交通(宿毛市医師会による委託)		藻津地区～市内 (5か所の病院を結ぶ) 片島岸壁～宿毛駅	1路線 1路線	○	○	5社
			西南交通	○コミュニティバス (はなちゃん号)	橋上地区・小筑紫地区の一部・市内 西部地区・市街地	5路線			
	大月町	西南交通	西南交通		町内ほぼ全域	13路線		●	2社
	三原村			○(民間業者に委託)	東・西・南便⇄役場⇄平田駅	4路線		●	1社

各種制度等の実施状況				地域公共交通会議等	地域交通の確保・改善策取り組み状況
デマンド型乗合タクシー(バス)	公共交通空白地有償運送(福祉有償運送)	タクシー料金等助成			
◎実施中 △実証運行中	◎実施中 △実証運行中	実施主体	高齢者等	障害者	○有 ●無
					● 平成21年度から福祉バス別役線(水曜日)を増便、計2路線を1台で運行中。町が回収・精製した家庭廃油を燃料に利用し、燃料代は経費ゼロで運行。
			バス路線遠隔地の75才以上	○	● 福祉施策として位置付け。山間地域で生活する高齢者の生活支援対策として、平成25年4月からバス路線遠隔地に居住する高齢者等へのタクシーチケット交付制度を新設。
			バス路線遠隔地域住民	○	○ 平成27年6月より村営バスの片道運賃上限を300円としており、平成32年3月まで継続する。最寄りのバス停から概ね1km以上遠隔地に居住している方で、車を運転できない方にタクシーチケット交付制度を実施中(H29年度まで)デマンド運行区間は、概ねdoor to door 対応
			65才以上	○	● 福祉施策としてタクシー料金助成制度を実施中。今後も利用状況等を考慮しつつ、継続をしていく。
			65才以上	○	○ 平成29年1月からの実証運行(9ヶ月)を経て、平成29年10月より町内4路線、週2日(路線によって運行日が異なる。)でコミュニティバスの本格運行を開始。今後も利用者や町民の意見等をもとに、より便利で利用しやすい持続可能なものとなるよう、調査分析を進め、定期的な見直しを行っていく予定。また、平成29年3月には、まちづくり施策と一体となった、戦略的な公共交通運営に関する、今後5年間の基本方針と具体的な施策をまとめた、「田野町地域公共交通網形成計画」を策定。
					○ 福祉施策として位置付け。通院ニーズ等に対応する新しい移動手段確保対策を検討中。
			80才以上	○	● 平成26年度から、中山地区で月1回の買い物応援バス(無料)を開始。平成29年度に地域公共交通に関する住民ニーズ等の調査を実施中。
					○ 安芸市元気バスは民間バス路線区域を除く、市内7路線を運行し市内のほぼ全域をカバー。平成26年11月から、県立あき総合病院への乗り入れ開始。平成28年10月から一部地域(別役・番匠地区)で予約型運行を開始。
				○	○ 村営バスの定期的な見直しを行い、平成25年4月から路線の一部延長と、1日あたりの便数を4→3便に変更。平成26年4月から最終便の瓜生→久重→和食駅間をデマンド方式に変更。空白地の解消・効率的な運行方法を検討中。平成29年度10月より発着場所、道家【月・木】、山の家(久重)→国光【火・金】を道家【月・火・木・金】に変更。
			70才以上	○	○ 平成25年3月29日に提出された「香美市営バス事業のあり方に関する答申」をもとに、土佐山田町では平成25年4月から小中学校の統合に伴うダイヤ改正及び新規路線の運行を開始。物部町では平成26年4月から、土佐山田町では平成28年10月から、新たに市町村営エリア型デマンドバス(区域運行)の運行開始。
			75才以上	○	○ 3年に1回、市営バスの路線およびダイヤを見直し。平成26年7月から運行している17路線の利用実績や地域要望を踏まえ、平成29年10月から12路線に改正(路線の集約・延伸、増便(1日あたり)、デマンド地域拡大、バスの小型化により道幅の狭い地域での運行を実施)。その他にスクール便あり。
◎(上倉・黒滝等13地区「せいらん」白木谷・八京地区「うめの里交通」)			通院タクシー	○	○ 平成26年10月1日から、市内北部中山間地域全域でデマンド型乗合タクシーを運行。
◎緑地区「愛あい号」 ◎土佐山・円行寺地区「かわせみ号」 ◎春野地区「しおかぜ号、はるちゃん号」 ◎御堂瀬・浦戸・長浜地区「みませ号」 ◎行川地区「はたる号」	◎	《2NPO法人※》		○	○ 【デマンド型乗合タクシー】 ・鏡・土佐山地区 平成24年10月実証運行、平成25年10月本格運行開始 ・春野地区 平成28年10月実証運行、平成29年10月本格運行開始 ・御堂瀬・浦戸・長浜地区、円行寺地区および行川地区 平成29年10月運行開始 平成30年度以降、布師田、大津、三里地域において導入を検討中
◎(全域)			通院タクシー	○	○ 目的地为町内・本山町・南国市・高知市に設定したデマンド型乗合タクシー制度を実施。その他、通院タクシー制度(町内病院からの帰り便)、町民バス(無料)を実施中。
			通院タクシー対象:75才以上	○	● 平成28年度に町内各地域にて現地調査等を行い、公共交通網形成計画(素案)を策定。平成29年度内に同計画を策定し、平成30年度に実証運行を行う予定。
			通院タクシー、バス	○	● 町内の交通体系の見直し策を検討予定。
			通院用バス助成70歳以上	○	● 高齢者への配食サービスや買い物代行サービスと、移動手段と物流を複合化した貨客混載型のサービスを検討中。平成30年度には、モデル事業を実施予定。
◎(小野、毛田、成山、吾北、中追、横敷・蔭)	◎(本川)	いの町社会福祉協議会		○	○ 町内全域にわたって、地域の実情に応じた運送手段を着々と導入。平成25年4月から、吾北地区の路線バス運休区間にデマンド型乗合タクシーの運行区域を拡大。町内路線バスのダイヤ改正の検討・本川地区公共交通空白地有償運送の運賃見直し等を実施。
			免許返納者(65才以上)	○	○ 平成24年10月からドラゴンバスをJR伊野駅まで延伸。鉄道便との連携を強化。
				○	○ 村内デマンドバスを有償化し、JR伊野駅まで運行。(定期運行を午前と午後1便ずつ往復させており、それ以外の時間についてはデマンド運行を実施している。)
				○	○ 平成27年度に佐川町地域公共交通会議を発足。同年度に佐川町地域公共交通網形成計画を策定。平成29年4月～9月、さかわぐるぐるバス(コミュニティバス)の実証運行を実施。10月16日から本格運行を開始。運行業務委託業者を公募し、町内3タクシー業者が受託。10人乗りバス3台体制で運行。
			75才以上	○	○ 平成25年10月から患者バス(無料)の利用対象者を拡大した町民バスの運行開始。平成27年2月26日越知町地域公共交通会議発足。平成29年度から無償で運行していた町民バスを市町村運営有償運送として運行を開始。
			80才以上	○	○ 町内全域を網羅する、町営バス(10路線)、コミュニティバス(30路線)を運行中。小中学校の統廃合に伴う、スクール便の見直しなど必要に応じて実施。
			バス路線遠隔地の70才以上	○	○ 平成26年11月から、市営バス(中ノ島線)を新たに桐間地区を通る形で運行開始。福祉部局とも連携しながら、公共交通を補完する仕組みづくりを検討。
			80才以上	○	○ 平成29年9月に町西部地域の町営バス(代替バス)3路線を廃止し、平成29年10月から町内全域25路線でコミュニティバス運行を開始。
	◎(初瀬、松原)	NPO法人絆	75才以上	○	○ 高齢者保健福祉計画を策定していく中でニーズ調査等を行い、平成23年5月から2地域で公共交通空白地有償運送の運行開始。並行して、通院用タクシーチケット制度、保健福祉事業への送迎サービスを導入。
			80才以上	○	○ 平成25年1月からの実証運行を経て、久礼地区・大野見地区の交通空白地への町内コミュニティバスを、平成25年10月から運行。地域のニーズに合った既存路線の見直しを行い、平成27年10月から本格運行を開始。
			80才以上	○	○ 旧町村単位で完結するコミュニティバス(各集落に週1回、1日4～5便運行)を十和地域、大正地域から段階的に導入。窪川地区においても平成26年10月からの実証運行を経て、現在10路線において本格運行を開始している。
				○	○ 平成24年度から川奥地区・市野々川地区での路線バスの本格運行を開始したことで、町内の交通空白地をほぼ解消。平成26年4月から、大方地区の大井川線で「北郷加持エリアデマンドバス」の本格運行を開始。
「ふれ愛号」 「ふれ愛タクシー」 (◎西土佐、東富山、蔭岡、八束)			免許返納者	○	○ 平成26年10月から交通空白地域であった八束地区で、デマンド型乗合タクシー(路線不定期運行)の本格運行を開始。西土佐地域において、デマンド交通と自家用有償旅客運送事業の重複解消を検討し、平成29年4月1日より、3路線をデマンド交通に統合。
◎「おでかけ号」 (下ノ加江、三崎、下川口)	◎(左3地区区の中の交通空白地)	NPO法人ノアズアーク	免許返納者	○	○ 1年間の実証運行を経て、平成26年10月から下ノ加江・三崎・下川口の3地区で、廃止路線代替バスの見直し策となるデマンド型乗合タクシーと、地区の周辺部交通空白地での公共交通空白地有償運送の運行を開始。
				○	○ 沖の島循環バス(スクール一般混乗)車両を、維持管理の容易な軽自動車2台に更新。沖の島循環バスの旅客範囲拡大。平成28年10月より公共交通空白地への新たな移動手段として橋上地区・小筑紫地区の一部を運行するコミュニティバス「はなちゃんバス」及びデマンドタクシーの実証運行を開始。 H29年10月より本格運行開始。
				●	● 地域からの要望により、平成24年度から町内路線バスを一部延長。
				○	○ 三原村創生総合戦略の一環として、平成28年度から定額運賃(1回100円)を開始し、回数券の発行を検討中

※福祉有償運送実施NPO法人:高知県肢体障害者協会、地域サポートの会さわか高知

補足説明③

ここでは、国土交通省や地方運輸局が、ホームページ上で情報提供している、地域公共交通活性化に向けた全国的な取組み事例のデータベースや、マニュアル・手引き集等をご紹介します。

他にも、都道府県・市町村で独自のマニュアルを作成しているところもたくさんありますので、調べてみてください。

○国土交通省ホームページ上で提供されている、取組事例データベース

公共交通活性化事例 (地域公共交通支援センター)	地域公共交通支援センター
地域公共交通の活性化・再生への事例集	事例集、ガイドライン集
地域公共モビリティ事例	地域のモビリティ確保のデータベース

○マニュアル・手引き・事例集・調査報告 など

タイトル	提供元	掲載先
地域のモビリティ確保の知恵袋	国土交通省	地域のモビリティ確保支援
地域公共交通の利用促進のためのハンドブック ～地域ぐるみの取組～		地域公共交通確保維持改善事業
地域公共交通づくりハンドブック		公共交通の利便性向上
はじめて会議委員に任命された方の地域公共交通ガイド	北海道運輸局	マニュアル
みんなで創る地域公共交通 -住民説明会の手引き編-	北陸信越運輸局	地域公共交通
公共交通の利用促進に向けた地域のサポート事例集		
地域公共交通会議等運営マニュアル	中部運輸局	地域公共交通
地域公共交通の確保・維持・改善に向けた利用促進策事例集		
地域公共交通確保・維持・改善に向けた取組マニュアル	近畿運輸局	地域・交通の活性化・再生
よりよい地域交通を実現させるためのマニュアル		基礎データ・事例集
なるほど！！公共交通の勘どころ	九州運輸局	公共交通活性化
地域への公共交通導入ガイドブック		